
絶対侵入

よぞ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

絶対侵入

【Nコード】

N1883A

【作者名】

よぞ

【あらすじ】

名探偵の私と、侵入者の奴。絶対侵入不可能の家に奴はどう入り込んでくるのか……。

これで家の中は密室になった。

ベランダの鍵も閉めたし、トイレの鍵も確認した。我が家に入るためのありとあらゆる進入手段はこれで完璧に防いではずだ。

午後21時、私は家の中全ての鍵を確認して回っていた。というのは今夜、我が家に侵入者が来るのだ。奴は大胆不敵にも必ず決まった日に犯行予告を出す。私と奴との対決も今回で三度目を迎えていた。

前回の対決まで私は奴の後手にまわっている。全ての出入り口を封鎖したと思えば不覚にも眠ってしまった私の枕元に、翌朝、奴の侵入した証が見せしめのように置いてあったのだ。それを見て私は愕然とした。前回たつた一つ見逃していた進入経路、それは煙突だった。我が家には暖炉があったのだ。

名探偵と言われる私が二度も遅れをとったという事実は私の自尊心を激しく傷つけていた。今度はなんとしても侵入を防いでみせる。これは私と奴とのプライドの戦いなのだ。奴をただ捕まえるだけならわけもないが、それでは過去二度の敗北の借りを返したことになる。全 세계どこにでも侵入すると言われていた奴が私の家に侵入を試みて失敗に終わる。それこそが私が求める勝利なのである。

もちろん、今夜は煙突も中から蓋をして進入できないようになっていた。念には念をいれて人が入りそうな通気ダクトも塞いで、最小限の換気扇しか残していない。もはや、中から鍵を開けない限り進入は不可能だ。奴にはルールがあり、ガラスや扉を破り侵入してくるということはない。奴は犯罪者ではあるが芸術肌なのだ。自分で決めたルールは破らないだろう。もし万が一、窓を破られて侵入されたとしてもそれも私の勝利なのだ。

さあ、どこからでも入ってくるがいい。入れるものならばな。

私は眠ることにしよう。次に目覚めた時、それが私の勝利の瞬間になる。

次の朝、私が目を覚ましベッドから降りるとそこには大きな箱が置いてあった。なんとということだ！ 奴が侵入したのだ。

私は敗北感に打ちのめされた。一体どこからこの家に侵入したというのだ。窓は全て鍵が閉まったままだし、煙突も換気扇も塞がれたままだというのに！

悔しさに歯を食いしばりながら、私は奴の贈り物を確かめることにした。

「ちょっと考えればわかりそうなものだけだね」

「仕方ないわ、いくら名探偵と言われてもまだ子供なんですもの」

箱の中から出てきた大きな熊のぬいぐるみと遊んでいる息子を見て二人は呟いた。周りの子より少し頭の回転はいいかもしれないが、やはり子供である。楽しそうにぬいぐるみと戯れている息子はとても愛らしい。

それから二人は小さな声で、たっぷりの愛情を込めて言った。

「メリークリスマス。愛してるよ」

(後書き)

お疲れさまでした。

最後まで読んで頂きありがとうございます。

子供の頃、疑う事を知らなかったあの頃。サンタクロースは煙突のない我が家に一体どう侵入しているのか不思議で仕方ありませんでした。

それよりももっと不思議だったのはサンタが私の望んだものではなく勉強道具を置いていくことでしたが。

お暇がある方、厳しい評価お願いします。

参考までに、私は褒められて伸びるタイプです() メ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1883a/>

絶対侵入

2010年10月11日08時07分発行